

緑の相談コーナーだより

NO. 328 2012. 10. 1発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “ハギ” (萩)

～優美な姿は秋の七草の代表にふさわしい～



ヤマハギ

Lespedeza bicolor Turcz.

ハギは、マメ科ハギ属の落葉低木または多年草の総称で、ヤマハギの別名ともされます。このヤマハギは、日本各地の山野に自生する落葉低木で、高さは2m前後になります。盛夏を過ぎる頃、梢の上部にたくさんの長い花序を伸ばし、総状に紅紫色(ときに白色もある)の蝶形の優美な花を咲かせます。なお、北海道や本州中部以北に自生するエゾヤマハギは、やや繊細な感じですが、ヤマハギの母種とされています。わが国では、万葉の時代から愛されてきた植物のひとつで、文字どおり秋を代表する花として、古くから歌に詠まれ、詩に編まれ愛されてきました。特に、日本の文学で萩が頻繁に登場するのは『万葉集』です。万葉集には

萩を詠んだ歌が多く、草木類の中では梅や松をおさえて第一位を占めています。このことから、この時代の人々が、深くこの花を愛していたことをうかがい知ることができます。山上憶良が、秋の七草の筆頭に萩を上げたのも、至極当然のことといえるかも知れません。時代が移り、桃山時代以降になると、秋の花としては菊の方がポピュラーになってきますが、それでも秋草の図には、萩は^{すすき}薄とともに欠かすことのできない存在だったようです。

植物名の由来ですが、葉を落として冬を越し、春にはふたたび芽を出すことから、ハギは生え芽(キ)の転訛で、毎年古い株から芽を出すことを意味します。また、小さい葉が歯の形に似ているので、「^{はぎ}齒木」と呼ばれたものであろうとの説もあります。なお、萩の字は、秋の花の代表ということで作られた国字で、平安時代から使われるようになりました。万葉の時代には、「芽」あるいは「芽子」と書いてハギと読ませており、「波疑」「波義」などとも書かれております。

ハギの用途ですが、根には根粒をもっており、やせ地・荒廃地にも先駆的に生育す

るため、土地を肥培する目的で、緑化工には古くから活用されてきました。

また、生活に密着した植物だったため、観賞用だけではなく、実用面での用途は多方面にわたっています。まず、春・夏に茂る葉は家畜の飼料として用い、茎は刈り取って垣根や屋根ふきに使われました。萩の枝折り戸は風雅そのものであり、柴垣にするとうびた趣があつて、近年までよく用いられてきました。細長く伸びる枝条は手工芸用（行李、箕、蚕箱、鳥かご、衝立、のれん、障子、土びん敷など）に用いられます。また、若葉を摘んで乾燥させ、茶の代用としたり、民間では根を乾燥させたものを煎じて、めまいやのぼせなどの薬にしている地方もあるそうです。

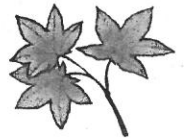
秋萩の匂へる野辺は草枕たび行く人も立ちとまりつつ 田安宗武

君ゆくとその夕ぐれに二人して柱にそめし白萩の歌 与謝野晶子



バラ園

公園だより



来年度のバラサミットに向けて、リニューアルの工事が忙しく進められていたバラ園ですが、今月は、中央バラ園など一部については観賞して頂くことができるかと思えます。今年は、夏の猛暑と秋の残暑が殊更厳しい年でしたが、これに耐えた10月のバラには独特の美しさがあります。これからの1ヶ月、北国の自然は劇的な変化を見せます。錦秋の森をバックに、晩秋の白露をまとったバラが、一番花をしのぐ魅力的な、凛とした姿を見せてくれることでしょう。色彩も香りも気品に満ちあふれたバラ達は、きっと見る人の心を虜にします。また、ハマナスの丘では、真っ赤に熟したハマナスの実がシーズンのフィナーレを告げているようです。

♥ **今月のバラ園からの一口メモ**は、秋バラ管理のポイントとスリップスの被害についてです。スリップスは、花の中にもぐり込んでいる粉のような虫です。秋バラの開花期近くまで、高温と乾燥が続くと被害が大きくなる傾向があります。被害を受けたバラは、花卉の先が茶色のシミ状になり、美観を損ねます。特に白やピンクの花は要注意です。雨と低温ですぐにいなくなりますが、被害の大きいときには蕾のガクが割れないうちにビニール袋をかけるか、毎日スミチオンの1000倍液をかけて防ぎます。

秋のバラは、春と違って一斉には咲きません。1本の木でも、順次かなりの間をおいて咲いていく傾向があります。遅い蕾は霜に当たって開かないこともあるので、ビニール袋をかけて保護してやりましょう。

室内公園色彩館では、一部リニューアルの工事が予定されていますので、ご迷惑をお掛けすることとします。でも館内では、サザンカやツバキの花芽がふくらみはじめています。年が明ける頃にはきっとみごとに開花することでしょう。

南国温室では、タイワンバナナの実が大きくなってきております。また、今年はユズの実がたくさん稔ってきております。ぜひ、南国情緒を楽しんで下さい。

相 談 日 記

問 庭木が何となく元気がないようなので、幹や枝をよく見てみると、幹と枝の一部がいつの間にか変色しています。何かの病気にかかってしまったのでしょうか？心配です。このような症状が現れる原因として、考えられることや対策、予防法などがあれば知りたいのですが。

答 害虫による被害や枝枯病・胴枯病などの病気におかされている心配があります。白く変色しているように見える枝や幹には、よく見てみると小さなお椀型や円形の虫が密集してついていることがよくあります。これは、樹液を吸収して庭木などを弱らせるカイガラムシの仕業です。イチイやツツジ、シャクナゲなどでよく見かけます。黒っぽく変色していたらスス病も発生しています。スス病は、カイガラムシやアブラムシの糞（排泄物）に発生するため、カイガラムシが寄生しているとスス病も発生している可能性があるのです。

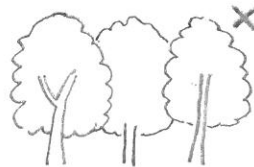
枝や幹の一部が赤褐色や黒っぽく変色し、その部分が陥没してザラザラしていたら、枝枯れ病や胴枯れ病にかかっています。バラやモミジ類に発生しやすいので要注意です。症状が枝や幹を一周して進行すると、そこから上の部分は枯れてしまいます。なお、このほか黒点病や斑点性の病気の可能性もあります。

治療と予防のポイント スス病にはベンレートなどの殺菌剤を散布しますが、この発生源となるアブラムシやカイガラムシなどを駆除する必要があります。アブラムシにはスミチオンなどの殺虫剤を、カイガラムシは歯ブラシなどで幹からこすり落としたり、カルホス乳剤などで駆除します。

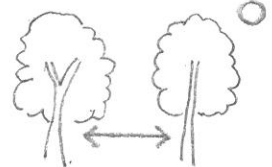
枝枯れ病や胴枯れ病の発生した枝は、根元から切り取って焼却処分しましょう。切り取ることでできない幹の部分などは、症状の出ているところを削り取って、トップジンMペーストなどペースト状の殺菌剤を塗布します。

斑点性の病気の多くは、カビの仲間が原因です。病気によってカビの種類は異なるため、斑点性の病気に広く有効なダコニール 1000 などの薬剤を散布します。

病原菌は、傷口や剪定後の切り口から感染します。剪定するときなどに幹などを傷つけないようにし、感染を防ぎます。また、作業後にはペースト状の殺菌剤を切り口に塗って病気を予防します。また、密生させると風通しが悪くなり病害虫が発生しやすい環境となります。適度な間隔を保つようにしましょう。



密生では風通しが悪い



適度な間隔

秋の訪れを知らせる紫色の花～マツムシソウ 花言葉 失恋



マツムシソウ科マツムシソウ属の二年草で、北海道から九州にかけての日当たりのよい山地や高原の草地に生育しています。高山には、丈が低く花の大きなタカネマツムシソウがあり、近年ではガーデニング用のセイヨウマツムシソウや、切り花用のコーカサスマツムシソウも人気です。名前の由来は、マツムシの鳴く頃に花が咲くとか、マツムシの好みそうな草地に生えるからなど諸説があります。

手入れのポイントは、冷涼な気候で、日当たりと水はけのよい場所で肥沃な土を用い栽培することです。また、多年草の品種では2～4年に1回程度、春に株分けをしましょう。なお、ヨーロッパ産の種は酸性を好まないの、植える場所には石灰などをまいて中和しておくといよいでしょう。高原のハイカーに秋の訪れを知らせてくれるマツムシソウですが、花壇のボーダーやロックガーデンなどに利用して、清々しい紫色の花を楽しむのも趣があります。

10～11月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣ 収穫野菜の加工・貯蔵

日時 10月 7日(日) 13:00～15:00

講師 (有)アグリカルチャーひろし 北村 博 さん 定員 40人 参加料 無料

♣ 庭木の冬囲い方法

日時 10月 14日(日) 13:00～15:00

講師 馬淵建設(株) 久保 隆 さん 定員 40人 参加料 無料

♣ 花木・庭木の剪定と管理

日時 10月 21日(日) 13:00～15:00

講師 樹木医 福士 正明 さん 定員 40人 参加料 無料

♣ 冬の室内植物管理のポイント

日時 11月 4日(日) 13:00～15:00

講師 緑化相談員(樹木医) 泉 征三郎 定員 40人 参加料 無料

編集・発行 北海道グリーンランド(空知リゾートシティ株式会社)

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで